

8月15日

今年も例年通り、靖国神社に事務所スタッフ、インターンの皆さん、さらに、RFラジオ日本で毎週土曜日に放送している番組「松原仁のジンじん仁」のプロデューサーである有泉孝さんらとともに正式参拝をいたしました。例年に比べて少し参拝者が少ないように感じられましたが、平素とは比べ物にならないほど多くの人で賑わっていました。しかし、そこは神社です。昇殿参拝のために一步奥へ足を踏み入れるとそこは厳かな空気に包まれています。目を閉じれば、その日も聞こえていたであろう蝉時雨が、意識を63年前に引き戻します。英霊たちが命を捨てても守ろうとしたものを私たちもしっかりと守っていかなくてはならない。その決意を今年も新たにいたしました。

例年の靖国参拝ですが、今年はパール博士の顕彰碑に花を手向けさせていただきました。先日、パール博士の御子息やお孫さんらをコルカタのご自宅に訪ね、パール博士への感謝と敬愛の念を一層強くしたからにはほかありません。

私たち日本人は須らく顕彰碑のパール博士の言葉を銘記すべきです。そこにはこう刻まれています。

時が熱狂と偏見とを
やわらげた暁には
また理性が虚偽から
その仮面を剥ぎとった暁には
その時こそ正義の女神は
その秤を平衡に保ちながら
過去の賞罰の多くに
そのところを変えることを
要求するであろう

同じような意味のことをデリーで会見したP.N.LEKHI弁護士も言っていました。LEKHI氏とは、東京裁判の見直しを推進するための国際連携について話し合いました。LEKHI氏は、私たちの提案に大いに理解を示すとともに、インドには英国植民地時代から続く問題があつてそれについて多くのサジェスチョンを得ました。それは植民地時代に行われた裁判で多くの不公正があつたこと。LEKHI氏は独立から60年を経てなお粘り強く、そうした裁判の見直しを求めているとのことでした。まさに思いを共有するものとして、インドと日本との友好連帯の可能性に大きな期待を抱いています。

インド政治経済視察ツアー

http://www.jin-m.com/kiroku/this_year/kiroku2008_0802.html

